

募集班長の模型部屋(第34回)

皆さんこんにちは。今回も、秋葉原で購入した福袋のキットを紹介します。福袋の中には当然ですが、沢山のキットが入っており、作らなくてもそれらを眺めているだけでも楽しかったりするものです。(私だけかも・・・)横で娘達が「父ちゃん本当にうれしそうだね。まあ、趣味が無いお父さんよりはいいけどさ・・・」と認めてくれているのかそうでないのか微妙なコメントをいただきました(笑)

では、今回は前回に引き続きそんなキットの中からソビエト軍の戦車

BT-7 です。



ロシアのズベスタ社製のキットで、私が始めて同社のキットを手掛けた第1号でもあります。BT-7戦車はソビエトの快速戦車(このカテゴリーは良く知りません)であり、騎兵支援や長距離の侵攻を目的とした戦車だそうです。ガソリンエンジンのため、ノモンハン事件で旧日本軍と交戦した時は火炎瓶ですぐに燃え上がり大損害を受けたそうです。その後、BT-7Mではディーゼルエンジン型となり、火炎瓶作戦は通用しなくなりました。最大の特徴は履帯でも転輪だけでも走行できる走破能力でしょうか。転輪で走る戦車はこの戦車だけでは？

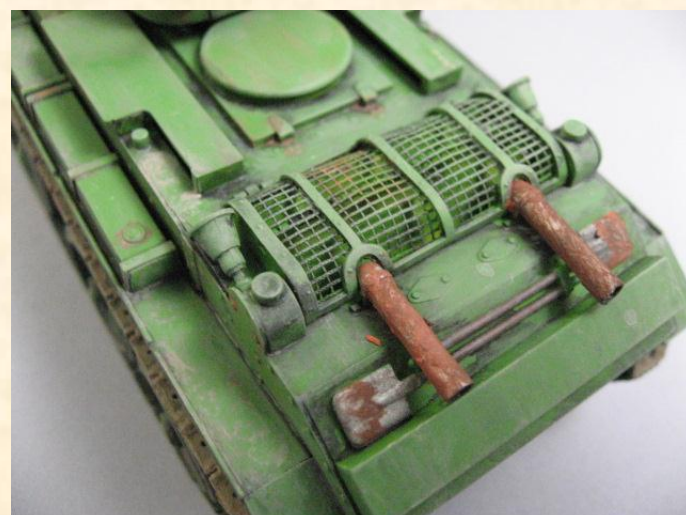
ズベスタ社製のキットはこのキットだけなのか分かりませんが、部品の曲がりやプラスチックのヒケが多く、注意しながら作る必要がありました。でも自国の戦車なので、形は実車を忠実に再現されていると思われま



部品数は少ないのですが、それぞれの部品の合わせ目が悪く、逐次修正しながら接着していかなければなりません。なかなか捗らなくて苦労しました。一番苦労したのは履帯です。指定されたとおりに組むのですが、長さが余ってしまい泣く泣く一枚の履帯を半分に切ってしまう処置を施す羽目となりました。



車体はクレオスのロシアグリーン（１）を使用し、履帯と転輪は全て組み上げた後につや消しブラックで塗り、後ほどエアブラシで車体色を塗装しました。



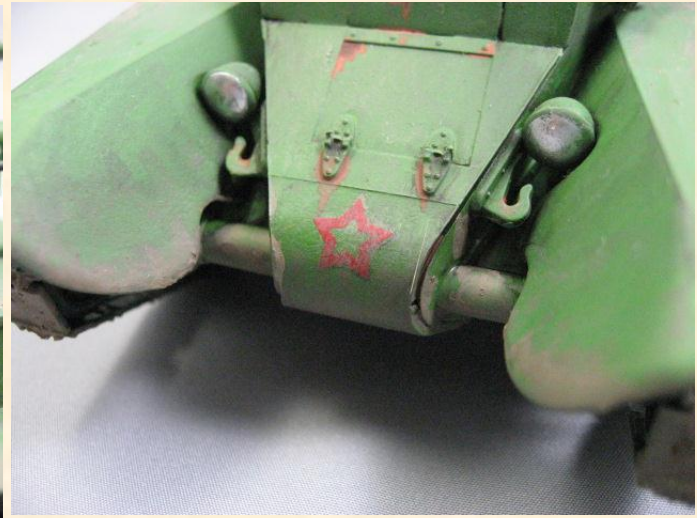
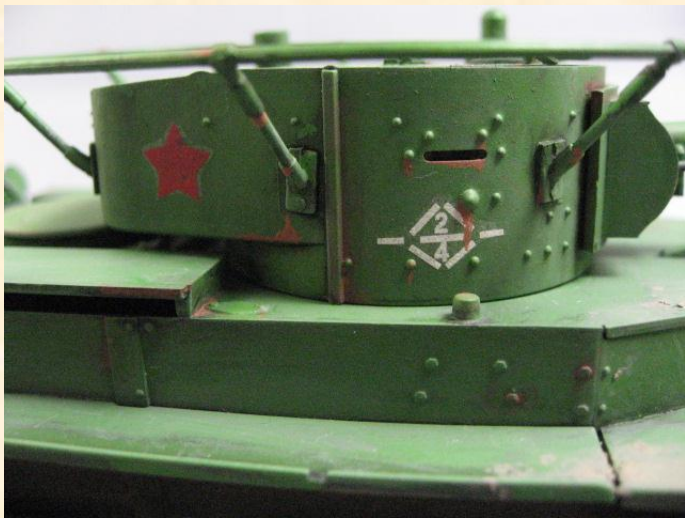
車体は基本塗装後、サクラマット・マルチ水彩絵の具でスミ入れし、車体全体にウェザリングスティックで埃を表現した後に乗員が乗り降りするであろう場所に泥を載せ、ところどころに絵画用の茶色パステルコンテの粉末で錆を表現しました。特に排気マフラーは粉のまま表面に塗りつけて、激しい錆を表現しました。



車体下部も接地する履帯には、ウェザリングスティックを直接塗り込み、泥つまりを表現しました。転輪の錆も忘れずに・・・



で、これが苦労した履帯の調整の跡です。キットの履帯はプラスチックベルトでなく組み立て式なので、どうしても融通が利かなくて、長さ調整のため一枚を半分に切断する処置が必要でした。目立たない場所でやってみました。なんとなくすっきりしない処置です・・・



錆は戦車の中でも最も錆びやすい箇所を自衛隊戦車を思い出しながら塗りました。基も自衛隊戦車はこんなに錆びるほど放っておく事はしませんが。広報展示用の古い戦車とかはその参考になるかもしれませんね。前照灯はクリアー部品を使用すればよかったと後悔してま



さて、今回を持ちまして、募集班長の模型部屋は終了となります。長らくのご愛顧ありがとうございました・・・

でも、**安心してください！**
続けますよ！！

3月末で同じ新潟地本の高田駐屯地援護室長に着任します。単身赴任が終わります！

次回から「高田援護室長の模型部屋」として引き続きプラモを紹介していきます。今後とも見てくださいね。